

船井情報科学振興財団 留学報告書

2016年11月

荒木 淳

1. はじめに

私は、2012年8月よりカーネギーメロン大学コンピュータサイエンス学部言語技術研究所 (The Language Technologies Institute of the School of Computer Science at Carnegie Mellon University) の博士課程に在籍しています。今学期 (2016年秋学期) は、11月8日に博士課程の一つの大きな節目である博士論文プロポーザルを無事終えました。今回の報告書では博士論文プロポーザルについて触れます。

2. 博士論文プロポーザル

博士課程において博士号を取得するには、博士論文審査会 (thesis defense) に合格する必要があります。博士論文プロポーザルはその前の段階の審査であり、博士論文の計画書に相当する文書にどのような研究をどのように行うかを記述し、プレゼンテーション (口頭発表) を行います。プロポーザルにあたっては、まず個々の学生に対して学位論文審査委員会 (thesis committee) が組まれます。私の学科の場合は、指導教官の他に少なくとも2名の同じ学部 (School of Computer Science) の教授と少なくとも1名の学外のメンバーによって構成されることになっています¹。論文審査委員の選出、つまりどの教授を論文審査委員に選ぶかは非常に重要です。私の場合は、博士課程の当初から研究プロジェクトをご一緒し、共著論文もある教授がいらしたので、その教授を委員に選ぶことは順当な流れでした。しかしながら残りの学内と学外の委員を選ぶのは難しく、私は何人かの教授を候補として挙げた上で指導教官に相談しました。その上で学内と学外の教授計2名を選定し、指導教官にそれぞれ委員を打診していただく形を取りました。その結果幸いにも引き受けていただくことになり、これにより私の論文審査委員会は計4名の教授から構成されることになりました。なお、学外委員の選出は自由度が高く、企業の研究者の場合もあります。

プロポーザルの執筆には時間がかかります。これまでに発表した論文を繋ぎ合わせて一つのストーリーに纏め上げる力と、過去の研究に基づく有意義で説得力のある研究計画が必要だと思います。私は普段の研究と同時並行で少しずつ書いていったのですが、書き始めたのが2015年11月だったので、ちょうど一年を要したことになります。完成したプロポーザルは、論文審査委員会に承認される必要があります。プロポーザルに記述した内容は、論文審査委員の教授らによる審査を通じて多かれ少なかれ修正されることがほとんどだと思います。承認されたプロポーザルは、そこで計画された内容に基づいて研究を遂行した暁には博士号が授与されるという、云わば学生と論文審査委員会との間の契約書のような意味合いも持ちます²。

プロポーザルを行う時期は、大学院や専攻分野、個々の学生によって大きく異なるようです。私の学科の場合は通常3年目の終わりから5年目くらいが多いようです。私の場合は5年目の最初です。一つの理由は、委員になっていただいた学内の教授が今年の9月に着任された新任の方でした。なので、その方が着任してからプロポーザルを行う必要がありました。

¹ <http://lti.cs.cmu.edu/intranet/sites/default/files/Handbook-PhD-18July2016.pdf>

² <http://matt.might.net/articles/advice-for-phd-thesis-proposals/>

博士論文プロポーザルのプレゼンテーションは、4、5人の教授全員が空いている日時を見つけることが難しい場合があるので、時期を見計らってなるべく早めにスケジュール調整を行います。誰でも来られる公の発表なので、プレゼンテーションの遅くとも一週間前に学科全体にメール連絡が流されます。私の学科の場合、プロポーザルのプレゼンテーションには45-60分の時間が与えられます。その後30分程度の質疑応答に続いて、論文審査委員会の教授らのみによる話し合いがあり、プロポーザルに対する評価が決まります。学会等で何度も研究発表をしてきたという経験があったので、プレゼンテーション自体はそれ程難しくないように感じました。私が難しく感じたのは教授らとの質疑応答です。考えさせられる内容の質問が多く、質問に答える中で今後の研究の方向性が見えたように思いました。

3. おわりに

博士論文プロポーザルを終えたことによって、最後の博士論文審査（ディフェンス）を残すのみとなりました。これまで積み上げてきた研究経験やプロポーザルを終えた博士学生に与えられる環境を考えると、プロポーザルからディフェンスまでの期間が博士課程の中で最も重要な時期のように感じています。今まで以上に時間を大切にしていこうと思っています。